

2026年05月02日（土曜日）

白谷雲水峡「さつき吊橋と奉行杉コース」再開・協力金のキャッシュレス決済導入のお知らせ

令和6年の台風10号の被害により通行止めとなっていた、白谷雲水峡のさつき吊橋と奉行杉コースについては、4月中旬に災害復旧工事が完了したことから、令和8年5月2日より「さつき吊橋と奉行杉コース」の通行規制を解除しました。

また、4月1日の協力金改定以降、キャッシュレス決済の導入に向けた環境整備を行い、ヤクスギランドで4月17日から、白谷雲水峡では4月18日からキャッシュレス決済を開始しました。5月1日～5日までの利用状況は、ヤクスギランドで37.8%、白谷雲水峡で37.5%でした。

新緑の美しい季節を迎えました。白谷雲水峡ならびにヤクスギランドをご利用の際は、事前に天気予報や専用ホームページで最新の情報をご確認ください。また、安全対策を十分に行い、「ルールとマナー」を守ってご利用いただきますようご協力をお願いいたします。



開通したさつき吊橋（左）、奉行杉（中）、キャッシュレス対応のお知らせ（右）

2026年05月07日（木曜日）

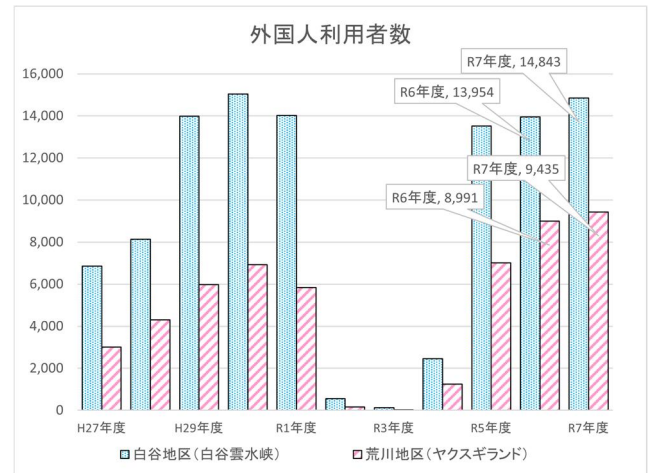
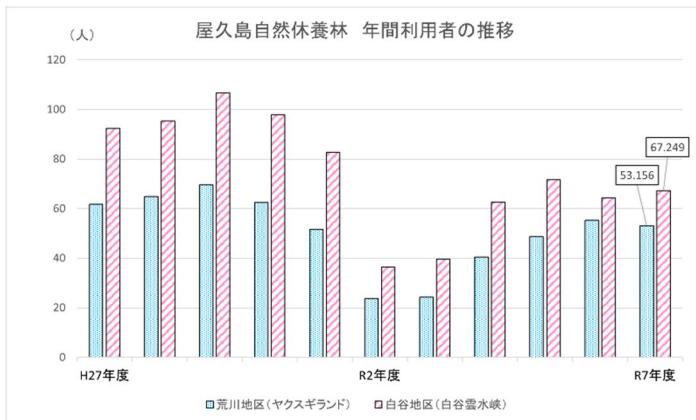
令和7年度 屋久島自然休養林の利用状況

令和7年度屋久島自然休養林(ヤクスギランド・白谷雲水峡)の利用者数について報告します。

年間の利用者数は120,405人(ヤクスギランド:53,156人、白谷雲水峡:67,249人)となり、令和6年度と比較すると約700人の増となりました。さらに、外国人による利用者は、令和6年度より1,333人増加の24,278人となりコロナ前の水準に戻りつつあります。

外国人の利用者が増加している要因としては、国際航空路線の回復と拡充や年間を通じて為替レートが、1ドル＝140～150円台で推移し「割安な旅行先」というイメージが定着していることが伺えます。令和7年度は、欧州や豪州からの観光客が増加しました。背景として、世界的な旅行の傾向が「体験型の消費」へ変化していることがあげられ、屋久島自然休養林の利用者数の増加に繋がっていると考えられます。

※データ提供：屋久島レクリエーションの森保護管理協議会



2026年05月11日(月曜日)、15日(金曜日)

小瀬田小学校と宮浦小学校で森林教室(屋久島型ESD)を開催

屋久島町立小瀬田小学校3・4年生18名と同宮浦小学校3年生23名に対して、屋久島森林管理署と屋久島森林生態系保全センターによる森林教室(屋久島型ESD)を実施しました。

はじめに、山中技官、能塚治山技術官補より「屋久島がなぜ世界自然遺産になったのか」をテーマに、屋久島の地形と気候が他の地域にない独自の自然環境であることが評価されて、世界自然遺産になったことや森林がどのような働きをしているのかについて説明しました。

次に、野田森林整備官らによる野外活動では、小瀬田小学校で飼育されているツマベニチョウを観察しながら、成長段階によって生活する植物が変わることや、なぜ棲み分けされているのか等を学びました。

宮浦小学校では、生き物と植物の関係性や、屋久島の多様な植生が多くの生き物のすみかとなっていることを学んだ後、校庭にいる身近な生き物が、どのようなところで生活しているのかを夢中になって観察していました。

屋久島型ESDは、屋久島を持続可能な社会にするために、島内の小中学生を対象に、屋久島の世界自然遺産(豊かな自然)を素材にした森林環境教育を通して自ら学び考え行動する力を高め、生きる力を育成することを目的としています。今後も関係機関と連携・協力し、継続して取組を進めていきたいと考えています。



屋久島の特徴について説明（左）、ツマベニチョウの卵を見つける児童たち（中）、生き物の観察の様子（右）

2026 年 05 月 13 日（水曜日）・22 日（金曜日）

中央中学校で森林教室を開催

屋久島森林管理署・屋久島森林生態系保全センターでは、屋久島町立中央中学校からの依頼を受け、5月13日と22日に1年生40名を対象に森林教室を開催しました。

初日は、屋久島環境文化研修センターにおいて、白濱森林整備官より「間伐は何故、必要なのか？」について、間伐が、立木の成長を促進し、さらには森林の保水機能が向上することで、土壌流出や災害発生の防止や軽減にも繋がる大切な作業であることを説明しました。その後、令和7年度に間伐を行った太忠嶽国有林（74林班）へ移動し、松井森林整備官、野田森林整備官による立木の伐採と搬出方法について、切株や路網を見ながら説明を行いました。

2日目は、梅見主事、蒔元技官より、屋久島の森林の扱われ方が時代ごとにどのように変化、発展してきたのかについて説明しました。その中で、現在の林業が、主伐から造林へと持続的に循環させていくためには、苗木生産が重要であり、その苗木の特徴と生産方法について説明し、実生苗と挿し木苗の2種類を紹介しました。その後、歌野森林技術指導官らによる指導のもと、生徒たちは、苗木づくりを体験しました。

参加した生徒からは、「間伐をすることで林内が明るくなっていた。」「苗木を作ってから育てて伐るまでにたくさんの時間がかかることを知れた。」などの感想が寄せられました。

屋久島森林生態系保全センターと屋久島森林管理署では、今後も関係機関と連携・協力し、森林教室の協力依頼に積極的に対応していくこととしています。



立木の伐採方法について説明（左）、苗木生産について説明（中）、苗木づくりの様子（右）

2026 年 05 月 19 日（火曜日）

令和 8 年度 屋久島世界遺産地域連絡会議 開催

屋久島環境文化村センターにおいて、令和 8 年度「屋久島世界遺産地域連絡会議」が開催されました。

本会議は、世界遺産地域の適正な保安全管理の推進を図るため、関係機関が相互の連絡調整を行うことを目的に開催されるもので、環境省・林野庁・鹿児島県・屋久島町のほか、地元の関係機関が参加し開催されました。

はじめに、各機関から令和 7 年度の事業実績および令和 8 年度の主な事業計画について報告が行われました。次に、屋久島町や環境省から、屋久島山岳部保全利用協議会、屋久島町エコツーリズム推進協議会、西部地域の持続的活用に向けたワーキンググループなど、関連する協議会・検討会等の取組状況について情報共有が行われました。

続いて、屋久島世界自然遺産地域におけるモニタリング調査等の実施内容や、今後の進め方について協議されました。また、環境省と林野庁が連携し取り組んでいる花之江河における湿原保全対策について、これまでに実施した流水分布対策や地下水涵養・浸食防止対策などの試行的な保全対策の結果を踏まえ、有識者を交えながら今後の対策を検討していくことが報告され意見交換を行いました。

このほか、登山利用への対応や自然環境の保全対策、し尿処理に係る課題についても意見交換が行われ、特に、人件費等の維持管理費の高騰を踏まえ、効率的な運営手法の検討や利用者負担のあり方、関係機関の役割分担の見直しの必要性など、今後の対応について認識の共有を図りました。

屋久島の貴重な自然環境を次世代へ引き継いでいくためには、関係機関の連携が必要です。今後も引き続き、関係機関が一体となって、世界自然遺産地域の適切な保全と持続可能な利用の推進に取り組んでいきます。



地域連絡会議の様子（左）、挨拶をする山口計画保全部長（九州森林管理局）（右）

2026 年 05 月 27 日（水曜日）～06 月 05 日（金曜日）

シャクナゲ開花期間における登山者指導を実施

屋久島森林管理署及び当保全センターにおいて、例年 5 月下旬～6 月上旬のシャクナゲの開花時期に合わせて実施している、高山植物の盗掘防止など登山者のマナー向上を目的としたパトロールを今年度も実施しました。

宮之浦岳や黒味岳など 4 つのコースにおいて、チーム編成を行い、2 日間延べ 9 名により実施しました。

今年は、例年より早く梅雨を迎え前半は雨が続いたことや、後半は台風 6 号の影響など天候に恵まれず、予定路線すべてのパトロールは出来ませんでした。そんな中でも晴れた日には、シャクナゲの開花を待ちわびた登山者は、屋久島の雄大な自然に触れられて満足そうでした。今回初めて参加する職員もあり、屋久島の森林の現況や登山者の状況把握など多くの知見を得ることができたパトロールになりました。

今後も地域の関係者と連携しながら、安全で楽しい登山となるよう呼びかけていくこととしています。



晴天に恵まれたパトロール（左）、開花中のシャクナゲ（中）、シャクナゲと黒味岳（右）

2026 年 05 月 28 日（木曜日）

アメリカハマグルマの防除作業について

本取組は、環境省がパークボランティア活動の一環として実施しているもので、鹿児島県・屋久島町・屋久島環境文化財団・屋久島森林管理署・当センターの総勢 20 名程が参加し、春田浜海岸において、緊急対策外来種に指定されているアメリカハマグルマの防除作業を実施しました。

現地では、在来種であるキダチハマグルマの群落内に、アメリカハマグルマが点在して確認されました。現時点では大規模な群落形成には至っていないものの、在来植生内に侵入している状況で、今後の分布拡大が懸念されます。アメリカハマグルマは、地表を這う茎の節から発根しながら増殖する特性を持っており、少量の残存個体からでも再生・拡大する可能性があります。このため、群落化が進行する前の段階から継続的に防除を行うことが重要です。今回の防除作業では、在来種との識別を行いながら、対象個体を根から丁寧に除去しました。除去した個体についてはその場に放置せず、適切に回収・処分しています。

今後も、環境省をはじめ、地域の関係機関と連携・協力し、生態系保全を目的とした継続的な取り組みに務めてまいります。

梅雨明けが近づき、本格的に暑さが厳しくなってきました。高温多湿の環境下では、体調管理に十分留意し、安全に作業を行うことが何より大切です。



アメリカハマグルマだけを根から抜き取る作業（左）、アメリカハマグルマ（右）